

被覆処理によるリンドウの出荷期間拡大技術

福島県農業総合センター 作物園芸部 花き科

部門名 花き一リンドウ一作型・栽培型

担当者 高田真美・矢島豊・鈴木安和・宗方宏之

I 新技術の解説

1 要旨

リンドウの F1 品種は生育の齊一性が高く、品質の均一な切り花を生産できるが、出荷期間が短いことから労力が集中し、栽培面積の拡大等が困難である。開発した露地栽培に開花を前進させる小トンネル栽培と開花を遅延させる地表面被覆栽培(図 1)を組み合わせる作型は、同一品種の採花期間を拡大することができ(図 2)、労力の集中を回避することが可能となる。

- (1) 収穫時のピーク量は減少し、1 日当たりの収穫本数は平準化する(図 3)。
- (2) 被覆処理による切り花品質は、露地と同等もしくは向上する(表1)。
- (3) 被覆期間は中通り中山間地では 2 月下旬から 3 月初旬より開始し、小トンネル被覆は植物体がフィルムに接触する直前、地表面被覆は植物体が 10cm 程度となる時期に終了する。
- (4) 小トンネル栽培と地表面被覆栽培の資材費は、被覆資材と固定用資材等を合わせて、1a 当たりそれぞれ約 18,000 円、約 29,000 円が必要である。設置時間は、2 人作業で、小トンネル栽培は 15 分程度、地表面被覆栽培は 10 分程度、必要である。撤去時間はそれぞれ 5 分程度である。

2 期待される効果

- (1) 出荷調製にかかる労働力が分散され、高品質な F1 品種の栽培面積の拡大が可能になる。
- (2) 気象変動等に起因して目標の時期に全く出荷できなくなる危険性が低減される。

3 適用範囲

豪雪地帯を除いた県内全域のリンドウ産地

4 普及上の留意点

- (1) 中通り中山間地での試験結果であるため、開花期は栽培地域の気象条件によって前後する。
- (2) 被覆処理を組み合わせる割合は、目標の時期に出荷できるよう栽培地域の開花期を考慮して決定する。
- (3) 被覆開始時期は、適用地域における積雪等の気象条件を考慮して決定する。

II 具体的データ等



図1 小トンネル(左)と地表面被覆(右)の被覆方法の例

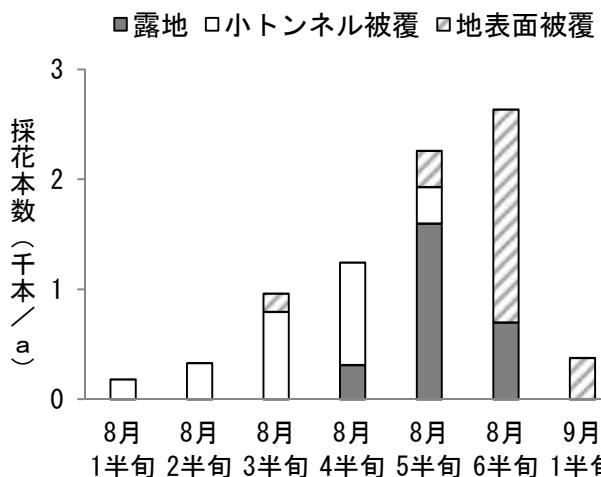


図2 被覆処理による採花本数
(「ふくしましおん」)

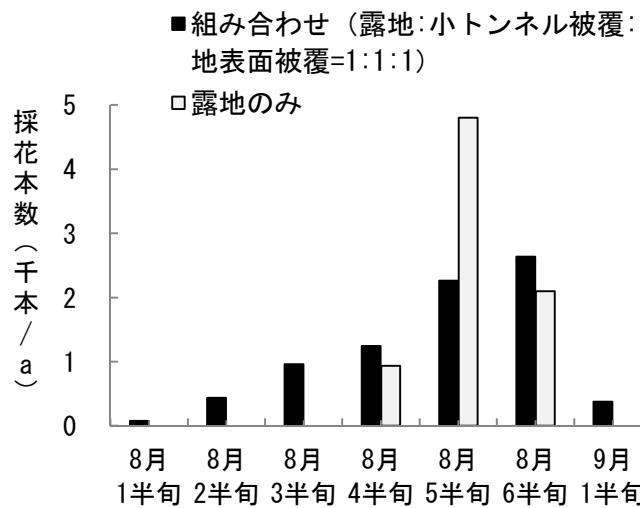


図3 被覆処理による採花本数の平準化効果(「ふくしましおん」)

表1 各被覆処理の切り花品質(「ふくしましおん」)

試験区	切り花長 (cm)	花段数 (段)	茎径 (mm)	出荷規格別割合 ¹⁾ (%)			
				L	M	S	外
小トンネル被覆	68.9 a	6.8 a	4.1 b	1	27	50	21
地表面被覆	71.5 b	6.6 a	3.9 a	9	34	35	22
露地	69.0 a	6.9 a	4.0 ab	1	35	42	22

1) L=80cm以上+5段、M=70cm以上+4段、S=60cm以上+4段

※Tukeyの多重比較法により、同符号間に5%水準で有意差なし

III その他

1 執筆者

高田真美

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 23 年度～25 年度
- (2) 研究課題名 福島の顔となるリンドウの高収益を実現する安定生産技術の確立

3 主な参考文献・資料

- (1) 平成 19 年度参考となる成果「中通り平坦部におけるリンドウ「ふくしましおん」の 8 月盆出荷作型」